佐倉日蘭協会会報 No.45● ●

Hallo! にちらん

"Hallo!" はオランダ語のよびかけのことばです

● ● ● 2023(令和5年)12.21

主催事業のご報告・ご案内

「オランダ児童デルフトブルー絵画展」を開催しています

当協会では佐倉オランダ児童交流事業を30年以上に亘り行っております。そのきっかけとなったのは、1988年アムステルダムへ貨物便を就航することになった航空会社からのお話もあり、佐倉市の小学生が描いた絵をオランダの小学校に展示してもらいました。翌年にはオランダから小学生の絵画が届き、市内でオランダ児童絵画展が開催されました。

このように絵画の交流が契機となり児童交流が始まり、ブレイスヴェイクのアンネフランク小学校との交流は現在も続いています。残念ながら2020年よりコロナ禍のため、派遣招聘事業は中断しておりますが、その間、児童交流経験者によるクリスマスカードの交換や交流協力中心校である千代田小学校児童に今年初め、ぬり絵を作成していただきました。(会報42号掲載)

前回の会報44号にてご紹介いたしましたように、アンネフランク小学校よりデルフトブルーの絵が届き、オリジナル作品は千代田小学校へ届けましたが、佐倉市民一般の方にも紹介するため、今回複写ですが下記の如く展示することに至りました。皆様お誘い合わせの上、ご観覧いただければ幸いです。オランダの子供たちが「デルフトブルー」を大切に思っていることが学べるかも知れません。

展示期間:令和5年12月19日(火)～令和6年1月17日(水)
場　　所:佐倉市立美術館!...GC'
1階カフェ脇壁面

観覧無料

オランダ語講座　受講者募集

新型コロナ感染症の対応も第5類に移行し、徐々に以前のような日常が戻ってきました。コロナ禍の講座では、感染対策を講じたため互いの口元や表情も見えず不自由な中、オランダ語基礎の学習を頑張っていただきました。

今回の講座では、リピーターの方には基礎的な語彙や簡単な会話の復習から応用へと進み、表現の幅を広げて頂きます。

初めてオランダ語学習に挑戦する方は、オランダ語の音やアクセント、イントネーションをよく聞くことから慣れていただきます。

基礎レベルの限られた語彙とパターンでも、多くのことが表現できることを実感していただけるよう願っています。

日　時:令和6年1月20日～3月9日
毎土曜日　10:15～11:45
会　場:ミレニアムセンター佐倉
第1または第4会議室
講　師:佐倉日蘭協会　会長　山岡みち代
受講料:会員　8,000円
一般　10,000円
小学生　5,000円(5年生以上)
募集人数:9名 (先着順、令和6年1月4日より受付)
申込み問合せ:佐倉市教育委員会　教育部
文化課　Tel:043-484-6191

お知らせ・ご報告

外務省主催　日蘭平和交流事業に参加しました

10月27日(金)、都内に於いて外務省主催「日蘭平和交流事業」により今秋オランダから招聘されたゲスト6名の歓迎レセプションが開催され、当協会からは会長、事務局長と会員2名が参加しました。

この事業は、先の大戦中に日本に特別な感情を抱くにいたった民間オランダ人を現在の日本に招聘し、相互理解を促進することを目的に平成7年(1995)から実施されています。

当協会は、長年にわたり歴代の会長はじめ会員有志が歓迎会に参加し、オランダ語での会話やオランダの歌の披露により友好親善の促進に協力してきました。昨年はオランダからの招聘者は2名、今年は6名ですが、かつては招聘人数も多く、ある年などは招聘者御一

行が大型バス一台で佐倉を訪れ、当協会がお迎えし交流したこともありました。また、戦時中のインドネシアで日本人を父親に、現地の女性との間に生まれた人々が父親探しを目的として来日するケースも多々ありました。

今回の招聘者 6 名の皆さんは日本滞在中に各地で人々と交流を行い、最終日の歓迎レセプションでは口々に「これまで抱いていた感情が払拭され、日本に対する印象が大きく変わった」と話してくれました。

【会長　山岡みち代】

チューリップ球根の植付け

植付け予定日（11 月 18 日（土））の前日に多量の雨が降り、畑の状態が悪く、翌々日の 11 月 20 日（月）に行いました。当日は風が少しある晴れた天候でしたが、雨の御陰で土は柔らかく植込み穴が掘り易い状態でした。また、植込みの後日、土をかぶせてくれるとの由で、例年より浅く植込みました。参加者は会長、事務局長、男子事務局員 2 名の計 4 名です。

オレンジブリリアントと云う品種で、鮮やかなオレンジ色の花を咲かせてくれる事でしょう。今年はいつもより少ない 120 球でしたが、来春の見事な開花を楽しみにしていてください。

【事務局　鴨志田英夫】

「市民活動発表会 2023・ポスター展」に参加しました

11 月 19 日（日）9 時半より佐倉市立中央公民館大ホール他で佐倉市市民公益活動サポートセンター主催「市民活動発表会　2023」に登録団体として参加しました。

コロナ禍により 3 年間はポスター展のみ行われましたが、今回、従来の「ボランティア・市民活動フェスタ」に代わり、「市民活動発表会 2023」として開催されました。しかしながら、飲食及び会場が制限され全体的に以前のような盛り上がりに欠け、子供たちの来場が少なくて残念でした。

それでも当協会ブース前で実施された「木靴体験」は多くの人たちが楽しみ、「思ったより軽い」という感想や「木靴の材質は何ですか？」という問いもありました。来年度は会場を志津コミュニティセンターでの開催も候補に挙げられているとのこと。佐倉市民活動が広く紹介されることを願うばかりです。

【事務局長　関 とも子】

オランダ・蘭学ゆかりの地巡り（テオ・ヤンセン展・千葉市立郷土博物館 見学）報告

今回の「オランダ・蘭学ゆかりの地巡り」は、千葉県誕生 150 周年記念、オランダ文化交流事業“テオ・ヤンセン展“が千葉県立美術館で開催されることを知り、11 月 29 日（水）に実施しました。

爽やかな秋空の下、参加者 19 名（男子 8・女子 11）は千葉みなと駅より徒歩で千葉県立美術館に到着。エントランスでは貝塚館長さん、お二人の課長さんに出迎えて頂きました。館内では植野課長さんの解説と、作品操作担当スタッフのトモヨシさんによる説明で、テオ・ヤンセン作品の魅力を余すことなく紹介して頂きました。

これらの作品はオランダが直面する海面上昇問題から生まれ、館内にはペットボトルやプラスチックチューブ等で作られ風力で動く 14 作品があり、内 2 作品は定刻毎に動かされ、その歩く姿は恐竜のようでした。

館内には千葉県とオランダの交流紹介ポスターが掲示され、佐倉の蘭学から始まった交流の歴史や佐倉ふるさと広場で撮影された写真もあり感謝致しました。

テオ　ヤンセン展 「アニマリス　オムニア　セグンダ」前で

午後は、千葉県立美術館からモノレールとバスで移動し、千葉市立郷土博物館の常設展見学となりました。同館の総括主任研究員である当協会の外山理事から、庭園の碑、猪鼻城跡、天守閣からの展望、「千葉氏」の興亡の歴史等を分かり易く説明頂きました。又、当協会大沢参与からもシーボルト関連資料を元にお話をして頂き、その後バスで千葉駅に戻り無事解散となりました。

千葉市での見学は好天に恵まれ、当協会にとって楽しく思い出に残るゆかりの地巡りとなり、見学先でお世話になった関係者の皆様に深く感謝した一日でした。

「千葉市立郷土博物館」入り口で

【事務局　八田幸男】

オランダ蘭学ゆかりの地巡り 11 月 29 日見学会

11 月 29 日は風もなく寒くもない散策日和でした。千葉駅からテオ・ヤンセン展が開催されている県立美術館までのモノレールは初めての経験で、ちょっとワクワクして乗車しました。

テオ・ヤンセンの謎の生命体ストランドビーストってどんなものだろうと美術館に入ってビックリ！　プラスチックチューブやペットボトルが結束バンドで繋がれた大きな模型のような物体が、大小何体も展示されていました。これらがそれぞれ動くなんて！

砂浜でこのストランドビーストが歩行・方向転換・危険察知などをするのをビデオの映像で見せて頂きましたが、壮観でした。

美術館でオランダに思いを寄せ、昼食の後は千葉市立郷土博物館に移動して千葉県がどのようにして現在に至ったのかを外山先生の案内で園庭から館内まで移動しながら説明をしていただきました。千葉県の成り立ちに佐倉が重要な地位にあったことも良くわかりました。

天気が良かったので、展望室からの眺望も素晴らしく遠くまで見通せて気分爽快でした。

散策会はいつも楽しみにして参加しておりますが、今回も素敵な企画でした。ありがとうございました。

【会員　中村みどり】

オランダ関連情報

『ゴッホと静物画　伝統から革新へ』展を見て

10 月 26 日 新宿 SOMPO 美術館で内外から集められた 69 点の作品のうちゴッホの作品 25 点とゴーギャン、セザンヌ、ルノワール他の静物画を鑑賞しました。

《ひまわり》《アイリス》の 2 作品が並び保護ガラスなしに見られたのに感激しました。

更に様々な作家の「ひまわり」の絵も楽しめました。中でもゴッホの絵は暗い印象だったのに明るい色彩が印象的でした。

「明るい色を使うことに慣れるため、ほとんど花の絵しか描かなかった」

「見る人に色彩の効果を伝えるためには、思い切って強調しなければならない」

当時のゴッホは人物画を描きたい想いが強く静物画は訓練と割り切っていたようだ。とのことです。ゴッホの絵に対する情熱と努力がしのばれます。

記念に画家ゴッホの洋装のミッフィーのぬいぐるみ、ファイル、絵はがきを買求め、夜はチェンバロの演奏会で芸術三昧の一日でした。

【事務局　若宮陽子】

鹿山文庫講演会に参加して

11 月 25 日(土)佐倉高校内地域交流施設で鹿山文庫講演会が開催され、当協会有志数名と参加しました。講師は津田守氏、講演のテーマは「津田　仙、19 世紀から 21 世紀へのメッセージ～藩校成徳書院での学びから現代社会を問う～」でした。

津田　仙の生い立ちから、成徳書院で学んだことをはじめ、幕府による米国派遣団に加わり福沢諭吉とともに通訳をしたこと、また農業を蘭語で学び日本の農業の近代化を推進したことなど、詳しい解説がありました。その他にも仙の功績は語りつくせない、という点に感銘を受けました。

仙の曽孫である先生は、仙が佐倉で過ごしたことに思いを馳せ、「お里帰り」移住をなさいました。来年は津田梅子の五千円紙幣が出るという事をお話になり、微笑んでいらっしゃったお姿が印象的でした。

【事務局　田中育子】

オランダと佐倉をつないだ 160 年前の絆

2001 年の春、幕張メッセで開催された国際食品見本市 FOODEXJAPAN で日本茶に惹かれたオランダ人女性がいました。レネ・ポンペさんは大学生の時に来日し、立命館大学大学院を卒業後、帰国して貿易会社を起業、日本からオランダに輸入できる商材を探していました。この見本市で日本茶に惹かれたレネさんは、すぐにオランダへ向けて輸出を始め、今ではレネさんを通じてヨーロッパ中に日本全国のお茶が届けられています。

実は、レネさんはオランダと日本を繋ぐ偉人ポンペ＝ファン＝メーデルフォールトのご子孫なのです。

向かって左端がレネ・ポンペさん

ポンペは、ドルドレヒトの貴族の家に生まれ、ユトレヒト陸軍医学校で学びオランダ軍医となり、オランダの海軍伝習顧問団の医学教官として来日しました。

当時、佐倉で西洋医学を実践していた順天堂の堂主・佐藤泰然の息子松本良順と佐藤尚中は、老中を務めていた佐倉藩主・堀田正睦の賛同を得てポンペの弟子となった人物です。

ポンペは医学校併設の病院設立を幕府に建白、良順が尽力し、文久元年（1861 年）に手術室、実験室、薬品庫などを備える初の洋式病院である長崎養生所が落成しました。続いて慶応 3 年(1867 年)、尚中は国内二カ所目となる洋式病院、佐倉養生所を設立し日本の医学発展に大きな功績を残しました。

レネさんもまた日本とオランダを繋ぐ存在として活躍し、ゆかりのある城下町佐倉の銘茶を海外に広めるため、毎年春、新茶の時期になるとお茶の出来を自分で感じるため日本を訪れます。オランダは海洋国家として歴史的に貿易に強い国ですが、レネさん自身もその才のみに頼らず足で稼ぐという商売の基本をきちんと身に着けた優秀な方です。

【特別会員　小川園社長　小川勝寛】

＊オランダ関係のイベント情報、ニュース等ございましたら、メール・FAX等で下記問い合わせ先までお知らせください。

特別会員（敬称略）

岡村美智子	佐倉ロータリークラブ
(株) 小川園	鈴木金物(株)
(株) オランダ家	田中育子
(株) 木村屋	千明 （CHIGIRA, M）
(株) クリケット	DIC 川村記念美術館
佐倉厚生園	塚田雅二
(社) 佐倉市観光協会	日本電気商会
佐倉商工会議所	富士測量設計(株)
佐倉社中合同会社	(株) ホソヤコーポレーション
佐倉順天堂医院	宮北英志
佐倉ライオンズクラブ	
(株) 村山ツーリストビューロー	
セカイセールスコンサルティング合同会社	

佐倉日蘭協会

〒285-0037 佐倉市本町 81　佐倉順天堂記念館
普通会員 1 口 2,000 円／特別会員 1 口 5,000 円
＊新規会員募集中　詳細は下記問い合わせ先へ

事業参加申込 ・ 問い合わせ
佐倉市教育委員会　文化課
文化振興班　佐倉日蘭協会担当
〒285-8501　佐倉市海隣寺町 97
TEL．043-484-6191
FAX．043-486-9401
e-mail：bunka@city.sakura.lg.jp
ホームページ「genki 佐倉日蘭協会」で検索